



書評

[評者]

佐田 竜一

大阪大学大学院准教授・変革の感染制御システム開発学

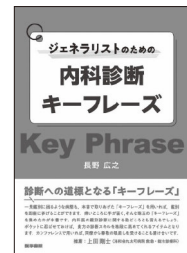
ジェネラリストのための 内科診断キーフレーズ

長野 広之 著

●A5 頁336 2022年4月

定価：3,850円（本体3,500円＋税10%）

[ISBN978-4-260-04923-8] 医学書院刊



臨床現場では、患者さんの問題を整理することが難しいことがしばしばある。特に昨今は、急激な超高齢社会の深化に伴い、他疾患併存が当たり前の世の中である。そのような環境における診断の複雑性を解決するためにさまざまな臨床推論に関連した良著が生まれている。本著もその系統の1つに並ぶであろう、診断方略のエッセンスを凝縮した書籍である。

本著では、患者がもつ臨床問題のうち最も疾患特異性の高い問題点を「キーフレーズ」という言葉で表現し、そこから鑑別疾患を発想・整理することを目的としている。われわれは臨床推論を進める際、しばしば表^{1,2)}のようなキーワードのタイプから整理を進めることが多い。

著者が扱う「キーフレーズ」は、このなかでも「Semantic qualifier」をメインに構成している。痒いところに手が届き（＝臨床現場で困りやすく）、かつ頻用するフレーズを抽出している点がとても秀逸である。これはひとえに、天理よろづ相談所病院、洛和会丸太町病院を経て真摯に臨床経験を積まれてきた著者の臨床能力に基づくものであると確信する（利益相反あり）。これを使えば、患者の問題点を速やかに整理できることは間違いない。いわばこの本は「名医の王道」へと誘う良著である。

ただし、この本を使用する際には2点注意

が必要である。

(1) 読者のキーフレーズの診断そのものを間違えない！

例えば本著にもあるが、「ばち指」「Raynaud 症状」などの用語には「定義」がある。その定義に合わない状況を誤って診断してしまうと、臨床推論そのものを大きく踏み外すことがある。

(2) 自分の経験に即したキーフレーズのカードを作ろう！

本著の鑑別疾患は、あくまで著者が臨床的に重要だと判断した内容や、著者の臨床経験に即した記載であろう。そのため、頻度的にきわめてまれなものや、逆にきわめてコモンディジーズすぎるものは記載されていない。例えば「急性発症の開口障害」の第一鑑別は、僕にとっては顎関節症だ（＝僕自身がそうだから）。だからこそ、読者は本に含まれている「Web 付録」を使って、そこに自分なりの鑑別診断を付け加えるといいだろう。そうすれば、素晴らしい臨床経験をもつ医師の思考と、自分の実体験を合わせた自分なりの「キーフレーズ」が生まれるだろう。

●文献

- 1) Bowen JL : Educational strategies to promote clinical diagnostic reasoning. N Engl J Med 355 : 2217-2225, 2006
- 2) Fleming A, et al : You too can teach clinical reasoning! Pediatrics 130 : 795-797, 2012

表 | 病歴から鑑別診断に至るコンセプトいろいろ（文献1,2）

キーワードのタイプ	意味	例
Big picture	患者の症状の中で主となる問題を表現した単語	腹痛
Semantic qualifier	患者の症状を医学的な言葉に置き換えたもの	急性の右下腹部痛
Illness script	患者の症状を「脚本」として捉え、鑑別にかかわり得る症状の強さや時系列などを付記したもの	20歳女性に生じた、1日前からの上腹部痛の後に生じた歩行時に響く右下腹部痛